

II. 事業の概要

1. 総括

2010年度は、民主党政権が打ち出した新制度導入のあおりを受けて、公立高校の授業料無償化、補助金政策の見直しなど教育界も翻弄された。高校では、公立高校無償化の見合いで私立高校生に就学支援金が公立高校生と同額若しくは所得に応じて倍額が支給された。ただ、愛知では財政難とはいえ、従来の授業料軽減補助金分が大幅に削減されたため、公私格差は逆に拡大、生徒募集でより厳しい環境を強いられた。

大学の補助金は、自公政権時代に設けられた「就業力育成業務」や「未来経営戦略推進特別経費」など補助事業が、事業仕分けの段階で打ち切りとされた。全国の大学の猛烈な反発によって継続したものの、しばらく未定となり、業務遂行に支障が生じた。また2011年度予算は財務省原案作成に向けて政策コンテストが行われるなど競争的資金に著しく比重が置かれ、短・中期的な大学運営すら視界不良の状態が続いている。

本学の管理運営では、大学が学校教育法に基づく日本高等教育評価機構による審査のほか、「学校法人運営調査(文部科学省)」、「科学研究費調査(同)」、「指定保育士養成施設調査(東海北陸厚生局)」、「税務調査(千種税務署)」と諸官庁の監査を受けた。一連の作業や監査の指摘事項により、改善すべき課題が明らかとなった。

財務運営面では、大学人間学部が4学年・総学生定員が揃う完成年度を迎えた。高校普通科の文理特進コースも3学年揃った。しかし、入学定員の未充足、大学で中途退学が入学者の2割(4年間の累計)にのぼるなど、学園全体の収支は先行き安定的とはいえない状況が続いている。

2. 主要事業の実施状況

(1) 将来計画の実質化に向けての取り組み

① 中期事業計画に基づく教学・経営の推進

高校の中期事業計画が答申としてまとめ、大学の事業計画とあわせて各事業が整理された。また、「未来経営戦略推進特別経費」を文科省へ申請する際に提出した5年間の「経営改善計画」に沿いながら、経営改善初年度として取り組んだ。大学部門は「就業力育成プログラム」を策定し、2011年度より新たな教育活動を実行する準備を行った。

② 第3次中期財政計画の立案

財政面では、5年間の財政シミュレーションを作成して経営改善計画を打ち出し、「未来経営戦略推進特別経費」(1600万円×5年間)の中長期財政及び人事計画のシミュレーションに基づいて、第3次中期財政計画(2012年度～2016年度)のたたき台を立案した。今後は、大学校舎の耐震工事等キャンパス構想プランを組み入れ、第3次中期財政計画を確定する。

(2) 教学・経營業務執行体制の確立と実行

①理事会の主体的な教学経営活動への参画

理事会の運営体制を強化するため、経営戦略・経営管理・教学・広報・社会教育連携と5つの領域の担当理事を決めた。この執行責任のもとで教学組織と連携して運営を進めた。学生生徒募集政策への関与に止まらず、高大連携授業や地域連携事業など学園全体として諸活動に成果をあげた。

②教学・経営組織と連携した重点施策への取り組み

教学活動と経営の側面を調整する「教学法人協議会」は、位置づけや役割・運営を規程化し、意思決定プロセスの正規機関として明示した。政策の調整機能として教学組織との円滑な運営に有効に働いたと言える。

(3) 理事会が主導する具体的な政策

①学生・生徒の募集活動

理事会のもとに「学生募集推進委員会」を設置し、募集戦略の立案など大学の募集活動を強化した。その結果、大学の4年ぶりの定員確保に大きく貢献した。

②予算編成と財務統制

予算編成・執行を統制・管理するため、新たな法人会計の電算システムを導入した。予算執行状況を明確化し、経費節約に取り組んだ。予算編成のあり方も検討し、問題点を整理した。新システム導入により、従来の経理処理を見直す機会となり、経理規程の見直しや業務改善に取り組んで内部統制の確立に前進した。

③大学と高校に一体感を育む全教職員間の高大連携

東邦高校の1、2年生ほぼ全員（普通科文理特進と美術科を除く）が、大学進学に関心を抱くような講座から希望科目を選択する「高大連携授業」を9月に実施した。学園として初の試み。「高大教職員交流会」も前年度に引き続き開いた。また、大学の教員免許更新講習には4講座で188人が受講、うち東邦高校教員が延べ24人参加した。地域交流事業として「納涼音楽祭」を9月に復活、地域から500人が参加した。

④広報の充実と情報の発信

学園のイメージ向上やブランディング戦略の一つとして、学園イメージキャラクターづくりに取り組んだ。東邦学園に対する親近感・認知度を高めることを目的とし、高校・大学にとって共にふさわしく、学生、生徒や保護者、卒業生、市民から親しまれるイメージキャラクターを募集し、制作した。

⑤後援組織を活かした支援体制づくり

学園の収益法人である（株）イープロが第2期目に入り、学園との連携事業を拡大して業務の効率化や経費削減に努めた。学園支援団体である「フレンズTOHO」からも事業支援や助成金など、これまで以上の協力が得られた。今後は、学園から「フレンズTOHO」会員に対して連携できる内容を再度整理して、相互に堅固な関係を築いていく。

⑥新たな奨学金制度の展開

学園全体として様々な奨学金制度の一元化を図ろうと取り組んだが、所管する機関の設置や制度の設計までには至らず、課題の整理に終始した。

⑦情報インフラ基盤の整備

学園全体として統括した情報システムを構築するために、現状の実態調査を実施した。また、法人会計・人事・給与システムを導入したことにより、管理運営については諸情報の一元化をはかった。今後は、大学・高校における情報システムの管理運営の整備・充実を図るための体制を整える。

(4) 理事会・評議員会の開催

開催日	会議名	主な議題
2010年5月26日	第1回理事会	前年度事業報告、決算・監査報告 評議員の選任
2010年7月5日	第2回理事会	「未来経営戦略推進経費」特別補助事業
2010年9月22日	第3回理事会	(株)イープロ事業報告、大学学則変更、高校普通科新コース開設
2010年11月24日	第4回理事会	本年度補正予算、学長・学部長。校長・教頭選任、資産処分
2011年1月22日	第5回理事会	次年度事業計画(骨子)、理事の交代 評議員の選出
2011年3月22日	第6回理事会	次年度事業計画(案)および予算(案)、学則の変更、理事の交代

2010年5月26日	第1回評議員会	前年度事業報告、決算・監査報告、評議員(高校・卒業生)の交代
2010年9月18日	第2回評議員会	(株)イープロ事業報告、高校普通科新コース開設、借入金の借換え
2010年11月20日	第3回評議員会	2010年度補正予算
2011年1月22日	第4回評議員会	2011年度事業計画(骨子)
2011年3月19日	第5回評議員会	2011年度事業計画ならびに予算